

トルネードエースDF（農林水産省登録番号 第22766号）

適用病害虫の範囲及び使用方法

令和6年8月28日現在

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	インドキカルブ を含む農薬の 総使用回数
キャベツ	コガ アオムシ	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ ウバノ類 ハイマダノメイガ シロイチモンジヨトウ	2000倍					
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ ウバノ類 ハイマダノメイガ シロイチモンジヨトウ コガ アオムシ	10倍	1～2L/10a			無人航空機 による散布	
はくさい	コガ アオムシ	1000～2000倍	100～300 L/10a			散布	
	ヨトウムシ ハイマダノメイガ カブラハチ類 シロイチモンジヨトウ ウバノ類	2000倍					
	ヨトウムシ ハイマダノメイガ カブラハチ類 シロイチモンジヨトウ ウバノ類 コガ アオムシ	10倍	1～2L/10a				
だいこん	コガ アオムシ ヨトウムシ ハイマダノメイガ カブラハチ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫21日前 まで	散布		
	コガ アオムシ ヨトウムシ ハイマダノメイガ カブラハチ類	20倍	1～2L/10a			無人航空機 による散布	
ブロッコリー	コガ アオムシ ハスモンヨトウ シロイチモンジヨトウ ウバノ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	散布		
	コガ アオムシ ハスモンヨトウ シロイチモンジヨトウ ウバノ類	20倍	1～2L/10a			無人航空機 による散布	
ねぎ	シロイチモンジヨトウ	1000倍	100～300 L/10a	散布			
		10倍	1～2L/10a		無人航空機 による散布		
いちご	ハスモンヨトウ オオタバコガ	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	散布		
なす	ハスモンヨトウ オオタバコガ テントウムシダマシ類						
トマト	ハスモンヨトウ オオタバコガ トマトキバガ						
ピーマン	オオタバコガ						
レタス 非結球レタス	ハスモンヨトウ オオタバコガ ヨトウムシ ウバノ類 シロイチモンジヨトウ			20倍	1～2L/10a	収穫7日前 まで	無人航空機 による散布

(つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	インドキサカルブ を含む農薬の 総使用回数	
えだまめ	ハスモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	2回以内	
だいず		8～16 倍	800 mL/10a			無人航空機 による散布		
かんしょ	ハスモンヨトウ カシロシタバ	2000 倍	100～300 L/10a			散布		
		20 倍	1～2L/10a			無人航空機 による散布		
さといも	ハスモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a			散布		
		20 倍	1～2L/10a			無人航空機 による散布		
しょうが	ハスモンヨトウ アノメイト	2000 倍	100～300 L/10a		3回 以内	散布	3回以内	
		20 倍	1～2L/10a			無人航空機 による散布		
たばこ	タバコアオムシ ヨトウムシ	2000 倍	100～180 L/10a		収穫10日前 まで	1回	散布	1回
きく	ハスモンヨトウ オオタバコガ シロイチモジヨトウ		100～300 L/10a		発生初期	4回 以内		4回以内
樹木類 (さくらを除く)	ケムシ類	4000 倍	200～700 L/10a					
さくら	クビアカツヅカミキリ	1000 倍	200～500 L/10a	成虫発生初 期				

[トルネードエース®DF の製品ページへ戻る](#)

【成分】 インドキサカルブ 5.0%  
 鋳物質微粉、界面活性剤等 95.0%

【性状】 淡褐色水和性細粒

殺虫剤分類	22A
-------	-----

### 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 害虫は同一剤の連続使用により抵抗性害虫が出現し、効果の劣った例があります。使用に当っては、関係機関の指導を受けてください。また、過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用してください。
- ねぎのシロイチモジヨトウを防除する場合は、食入前の若令幼虫期に散布してください。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ってください。

- ① 散布は散布機種<sup>1</sup>の散布基準に従って実施してください。
  - ② 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
  - ③ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
  - 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

### 安全使用上の注意

- 本剤は目に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないでください。
  - ② 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてください。
  - ③ 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
  - ④ 散布直後から1日後まではミツバチを移動させるか、巣門を閉じてください。
- マルハナバチに対して影響を与えるおそれがあるので、散布の際はマルハナバチ及び巣箱にかからないようにしてください。また、散布直後から6日後まではマルハナバチを移動させるか、巣門を閉じてください。
- つまみ菜、間引き菜には使用しないでください。
- 火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤等で消火に努めてください。
- 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収してください。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
- 直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

- ラベルをよく読んでください。
- 記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届くところには置かないでください。
- 空袋は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。